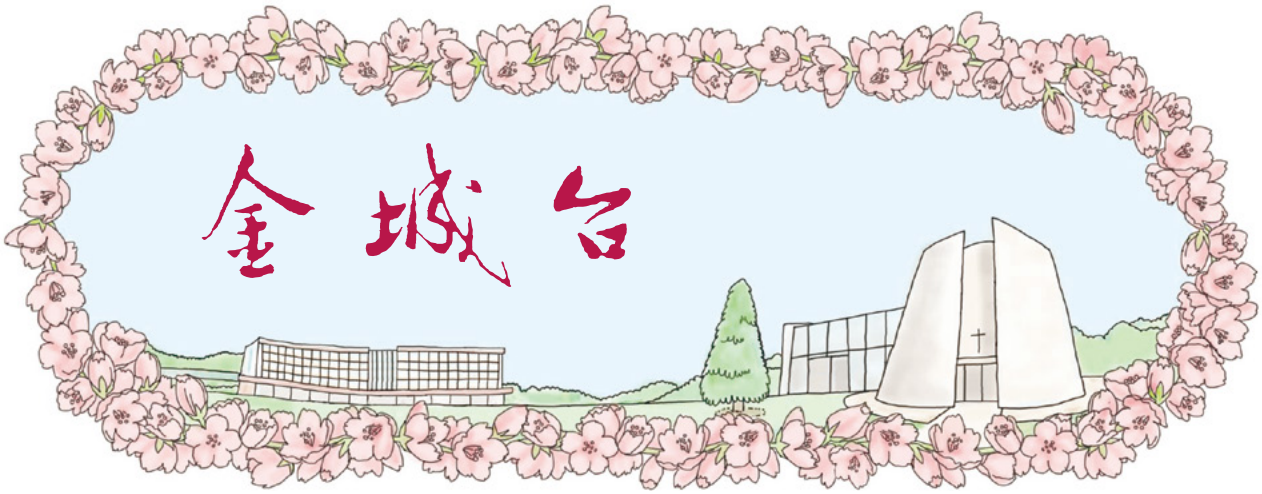


巻頭言

「Z世代にさようなら」

―あなたは、年が若いということで、だれからも軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、行動、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となりなさい。

（新約聖書：テモテへの手紙一　4章12節）

大学宗教主事
吉松（よしまつ）　純（じゅん）

皆さんはＺ世代という呼称を聞いたことがあると思います。1995年から2010年（2005年とする説もある）の間に生まれた人たち、ちょうど大学生の皆さんの世代を指す呼称です。Z世代の名前の由来は世界的写真家だったロバート・キャパ（1913-1954）であるとか、作家のウイリアム・ストラウス（1947-2007）とニール・ハウ（1951-）がThe Strauss-Howe generational theory『ストラウス・ハウ世代理論』で発表したとか諸説ありますが、スマホやウインドウズ、アップル、グーグル、アマゾンなどIT産業が発展したデジタル時代に生まれた世代とされています。また思春期にコロナ禍を経験した世代でもあります。

Z世代以前にもベービーブーマー、団塊の世代、新人類、バブル世代、ポスト・バブル世代、ゆとり世代など様々な呼称がありました。それらの呼称に共通するのは、その世代の人たちの共通点をほんの少しだけ挙げて、まるでそれが誰にでも当てはまる特徴として「十羽一絡げ」でまとめてしまい、個性が見えないことです。誰ひとりとして同じ人はいないのに、そういった無意味なレッテル付けをしてまるで「この世代はこうだから」とか「私たちの時代はこうだった」とか勝手に決めつける人たちのなんと多いことでしょう。

皆さんは、一人一人違う個性であり、唯一無二の存在です。そんなレッテル付けは愚行ですし、誰かに対して自分の思惑で「こうだ」と決めつけて見るのも無意味です。自分が何になるのか、どのようなアイデンティティを持つか、どのような人間になるかは皆さん次第です。皆さんのこれまでのアイデンティティは例えば国籍、日本人であるとか外国にルーツがあるとか、どこどこの生まれ、誰々の子、どこどこ高校卒、中にはスポーツや音楽など特技で既に有名な人もいるかもしれませんが、それらは必ずしも自分で得た肩書、アイデンティティではありません。皆さんが一人の個性、個人として真のアイデンティティを確立するのはこれからです。

好むと好まざるとに関わらず皆さんには金城学院大学という肩書が加えられます。在学中も、卒業後もずっと。またその先、皆さんが仕事をしたとして、その職業も皆さんのアイデンティティになります。今、皆さんは本当の意味で自分のアイデンティティを確立する第一歩を踏み出したわけです。金城学院大学生という肩書、それを生かすも無駄にするも皆さん次第です。

冒頭の言葉はパウロという１世紀の神学者、伝道者が、自分の若い弟子テモテに送った手紙の一節とされています。今の社会では皆さんは年が若いからと軽く見られたり、女性だからと不当な扱いを受けることがあるかもしれません。しかし、皆さんは一人の個性であり、尊い人格であることをいつも忘れないでください。金城生としてそのように自覚し行動してください。私たち、金城学院大学の教職員一同はいつも皆さんを応援し、見守っています。

私の教会

日本基督教団名古屋北教会

日本基督教団名古屋北教会牧師
金城学院中学校聖書科非常勤講師
金城学院幼稚園聖話講師
山田詩郎（やまだしろう）

日本基督教団名古屋北教会牧師
金城学院幼稚園聖話講師
山田麻衣子（やまだまいこ）

名鉄瀬戸線「尼ケ坂」駅から北に３分ほど歩いた所に名古屋北教会はあります。

1932年、青年キリスト者たちの小さな集いは、アメリカ南長老教会（金城学院、スマイス宣教師夫妻）との結びつきを得て、当教会を生み出しました。以来、多くの金城学院の生徒・学生・教職員の方々、また地域の方々が、ここでイエス・キリストと出会い、神さまの言葉に養われ、平安と祝福の道を歩んでまいりました。

毎週日曜日の朝９時から教会学校（幼児～高校生向け）が行われます。元気に挨拶をしながらやってくる子、まだ少し眠そうな顔をしている子、礼拝へと心静かに向かう子、息を切らして時間ギリギリにやってくる子・・・いろいろな子どもたち生徒たち、そしてその親御さんたちや教会員たちが一緒に神さまを礼拝し、その後、遊んだり、懇談したり、おやつを食べたりして過ごします。

朝10時ごろになると、更に多くの方々が会堂にやって来られます。当教会で最も大切にしている10時15分からの聖日礼拝に集うためです。老いも若きも、出身地・国が異なる方々も、共に神さまの言葉を聴き、パイプオルガンの奏楽に合わせて讃美歌を歌い、祈ります。

尼ケ坂駅のホームに長年広告看板を出しており、そこに聖句「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」（コリント二４：18）を掲げています。見えないけれど、本当のものに触れる（触れていただく）経験、永遠の事柄に目を注いで喜びを得る生活は、教会・礼拝に与えられている恵みです。

毎週水曜日には聖書を学ぶ会、その他、音楽会やクリスマス行事、子どもたちの遠足なども行われています。ぜひあなたも足を運んでみてください。お待ちしています。

私の学生時代

社会福祉学と幸せ

人間科学部長
朝倉美江（あさくらみえ）

田舎の高校生だった当時、もっとも身近な社会人女性は学校の先生でした。私も地元大学の教育学部に入ろうと思って受験勉強をしていました。しかし３年生になった時、受験雑誌の名物教授という特集で、一番ヶ瀬（いちばんがせ）康子先生（当時日本女子大学教授）の「社会福祉学は人間を総合的に捉え、人が幸せになれる社会をつくるための学問です」という文章に出会い、すごく惹きつけられました。そこで急遽社会福祉学部がある大学を探し、日本福祉大学に変更しました。

大学では貧困・低所得層の問題、福祉国家、ソーシャルワークなどを学び、人権や平等とは何か、どうしたら貧困や差別が無くなるのかなど考えていました。またテニス部に入り、試合では金城学院生に負けたりしながらも真っ黒に日焼けしながら楽しく続けていました。

さらに「社会で学べ」という大学の教育方針に添って名古屋の障害者地域作業所などでボランティア活動をしていました。その時、脳性小児まひの車いすの女性から学校に行けなかった話を伺ってショックを受けました。そしてイギリスのコミュニティケアの文献などを読み、これからは施設ではなく誰もが地域で生活できる地域福祉の時代だと思い、卒業後地域福祉の現場で働きました。その後そこで出会った多様で深刻な課題を解決する力をつけるために一番ヶ瀬康子先生のところで学びたいと考え大学院に進学しました。

大学院では、コミュニティケアや協同組合を研究し「生活福祉と生活協同組合福祉」というテーマで博士論文を書きました。そこで学んだ賀川豊彦の「愛のない経済こそが貧困と紛争をもたらし、究極的に戦争に至る」や一番ヶ瀬先生の「平和なくして福祉なし」という言葉が今なお続く戦争の時代により深く重く思い出されます。

「キリスト教の時間」講演要旨

「土からの平和」

日程：2024年11月14日（木）

講師：荒川朋子（あらかわともこ）

アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校 校長

アジア学院は栃木県那須塩原市にある創立51年目の学校で、いわゆる開発途上国から貧困、食糧難、紛争、環境破壊、人権侵害などの諸問題に取り組んでいる農村リーダーを毎年約25名～30名招いています。９ヶ月間の研修で生活共同体を形成し、共に働き、共に食し、共に学びます。現在日本を含む62カ国で1,400人以上の卒業生たちが、現地の人々とともにそれぞれの地で活動しています。

アジア学院はアジア諸国との和解の願いに基づいて創られました。第二次世界大戦後、アジアのキリスト教会は、日本の侵略と植民地支配の結果、貧困と飢餓にあえぐ農村地域の再建を担う人材養成を日本のキリスト教会に要請しました。この要請に応えて農村伝道神学校内に新設された研修所が今のアジア学院の原点でした。ですからアジア学院は第二次世界大戦中の日本の犯した罪の贖罪のために生まれたと言っても過言ではないのです。

戦争という暴力の結果生まれたアジア学院は今日でもこの歴史の重荷を感じています。これまでアジアからアジア学院に来た学生の多くは日本に侵略され、占領された国々の出身者であり、その他の地域でも癒しと和解を必要とする紛争状態にある国々の出身者たちが多くやって来ます。自国で疎外され、差別を受けている民族やグループの出身者も少なくありません。

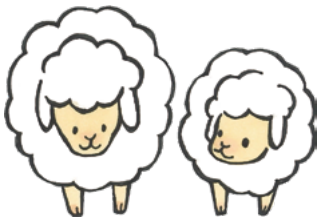
このように複雑な背景を持つ学生たちと平和で調和した生活を追求する上で、私たちは「共に生きるために」をモットーにしています。対立や衝突、感情のぶつかり合いが起こり得る日常で、平和と調和を目指していく姿勢とスキルを身に着けることをこのモットーは後押ししてくれます。また毎日の生活で「FOODLIFE」（食といのちは切り離すことができず、双方に依存し合っているという事実と概念。食料生産、加工、調理、食の分かち合いなどの活動を含む）に携わることによって、アジア学院のメンバーの関

係はさらに強固なものになっていきます。たとえコミュニティが分断したとしても、自分だけでなく他のメンバーのために力を合わせて自然と協働してFOODLIFE ワークを行うことによって、言葉を超えて互いを敬い、赦し、和解を望む心が育くまれていくのです。

「土からの平和」はこうしたアジア学院の歴史的背景や特徴を踏まえて生まれました。「土からの平和」とは、いのちを育む土を愛し、神様が創った他のあらゆるものと共に生きようとすることで平和を築いていこうという生き方、平和構築のアプローチです。神様は、まず平和の土台として、すべてを捧げる非暴力の土をお作りになり、その上に私たち人間をその管理者として置かれました。そしてその土に仕え、それを正しくよく管理するならば、平和は必ず与えられるという希望を与えてくれます。

「土からの平和」の実践は農に携わる人たちにのみ与えられた特権ではありません。どこにいても私たちは毎日土や自然から与えられた食べものをいただいて生きています。皆「土」につながっています。土から生まれた食べものは神様から与えられたいのちであり平和であることを覚えて、「土からの平和」の歩みに共に参加してください。

「キリスト教の時間」に出席して（学生の感想）



今回、土からの平和というテーマで講演を聞き、土や農業が私たちの生活に深く関わっているということを実感しました。以下では、印象に残ったことを二つ述べます。

一つ目は、アジア学院の研修プログラムについてです。困難な課題を解決すること自体が難しいのにも関わらず、「共に生きるために」をモットーに、国籍、文化、考え方の異なる学生同士で調和を目指して活動できていることに感心しました。彼らの考えの根底にフードライフがあり、神から与えられた土を耕し食料を作ることを大切に守ろうとする姿勢が共通しているからこそ、成り立っているのだと思いました。このように互いを許し、平和と和解を望む心を育んでいくことによって、農村のリーダーとしての集団意識も同時に芽生えさせることにつながってくるのではないかと思います。そして、そのようなリーダーが増えていくことで、貧しい農村地域での食糧の奪い合いの争いなどが起こりにくくなり、農村地域に平和をもたらすことができていくのではないかと思いました。

二つ目は、人は食べ物を育てることを土に強制してはいけないということです。現代の農業ではどのようにして品質の良い作物を育てるかを中心として、土地の改良がされたりしています。しかし、農業の根本は自分たちが生きていくために必要な食料を得ることだと思います。よって、アジア学院が取り組む有機農業は、現代の農業でより大切にしていかなければならないと感じました。加えて、農業分野でも課題となっている気候変動について、原因を作り出しているのは先進国であるのにも関わらず、影響を大きく受けているのは農業地域が多いということも問題と感じました。

アジア学院で行われるリーダーを育てるということは、農村地域に農業技術を教えるだけでなく、世界の農村地域の問題を先進国にも広げていくために重要な役割を担うことにつながっているのではないかと思いました。今回の講演のように、農村地域の現状を知り、それが平和にもつながっているということを多くの人が知る機会を増やしていくことが必要だと感じました。

文学部音楽芸術学科１年（当時）　沼倉英利（ぬまくらえり）

私は荒川朋子氏の講演の中で、「背景が異なる人達が笑って話し合いおなじものを食べるとは喜ばしいだけでなく平和の構築の始まりである」という言葉に感銘を受けた。この言葉は、荒川氏が好きな言葉として紹介してくださった言葉だが、まさにこの言葉がアジア農村指導者育成専門学校のあり方だと感じた。

この専門学校の中では、多くの国の生徒や教師が共同生活を送っている。国が違い文化も違う人達が協力して作物を育て、料理をして、同じお皿から食事をすることは、平和に一番近いと考えられる。第二次世界大戦による日本の侵略で未だに貧困や飢餓に苦しむ人々が、日本人の贖罪や償いとしての教育を受け取り共同体として生活することが何よりの平和だと理解した。

また、この言葉は荒川氏の信念に通じるものがあると実感した。食を通して地域の人々や学校の人々と心を通わせて、過去の憎しみや罪を超えて絆を育んでいることが、荒川氏の言葉の実現を意味していると感じられる。土に仕えて神に仕えるものとして共に植物や家畜を育ててその成果を分け合うことは平和に直結し、それを学んだ人達が元の国に帰り、その考えを広めていくことで他人を尊重する気持ちや支え合いの精神を広げていくこと。それが荒川氏の信念だと理解した。

アジア農村指導者育成専門学校の理念は、キリスト教の考え方を通した平和の構想を世界中に広めていくことだと考えられる。土に触れて土に仕えることにより、第二次世界大戦で侵略した日本人と共同体として生活して、協力し合い、尊重することができるようになり、新しい考えを学んだ新たな指導者たちが、その知識や考え方を自分の国に持ちかえることで平和が拡がっていくと期待できる。

有機農法をただの方法と考えるのではなく、土や作物に感謝して謙虚に生きることで持続的に農業をしていくことが将来に繋がり、結果的に様々な農村を支えていると評価できる。そのために、アジア農村指導者育成専門学校はただ農業について教えるのではなく、新たな指導者たちに哲学的なことも教えていることは、とても素晴らしいと思った。

人間科学部多元心理学科１年（当時）　神谷光咲（かみやみさき）

礼拝説教要旨

秋の伝道週間
2024年10月22日（火）朝の礼拝

「聖書をぱっと開いてみたら」

日本基督教団東海教会牧師　和田芳子（わだよしこ）

今朝は、私の人生を決めた聖書のことばをご紹介したいと思います。

私はずっと東京で福祉の仕事をしていました。そのなかで出会った人たちに、イエスさまがいてくださるから大丈夫と伝えたいと思いました。辛い困難を抱えて生きる人に、福祉の制度、サービスとともに神さまの愛が助けになると思いました。それで牧師になりました。

そんな私に、名古屋市にある日本基督教団東海教会の牧師にならないかというお話がありました。

名古屋には知り合いもいないし行ったこともありませんでした。それに赤だしのお味噌汁が好きではありませんでした。ああ、赤だしのお味噌汁が好きじゃないから名古屋に行きません、は通用しないよなあ、と悩みました。

それで神さまに毎日祈りました。でも神さまの声は聞こえてきません。それで聖書に聞こうと思ったのです。

手元の閉じてある聖書をぱっと開きました。そうしたら新共同訳聖書の新約聖書260ページ、使徒言行録23章１節からでした。

どきどきして読み始めます。「そこで、パウロは最高法院の議員たちを見つめて言った。」

え、これがわたしへの神さまからのことば？　そのあともパウロと最高法院の人たちの論争です。それでもそのまま読んでいったらあったのです。「その夜、主はパウロのそばに立って言われた。『勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証ししたように、ローマでも証しをしなければならない。』」（11節）

これだ！と思いました。「勇気を出せ。東京でわたしのことを力強く証ししたように（かどうかは別として）、名古屋でも証しをしなければならない。」と聞こえたのです。

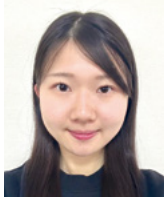
初めての土地でも、知り合いがいなくても、赤だしのお味噌汁が嫌いでも「勇気を出して名古屋へ行け」と神さまに言われたと確信しました。

このように、聖書にはそのときの皆さんの背中を押してくれる、勇気を与えてくれる神さまのことばがあります。さあ、聖書をぱっと開いてみませんか？

秋の伝道週間
2024年10月23日(水）朝の礼拝

「求める大切さ」

人間科学部
現代子ども教育学科４年（当時）　横山円香（よこやままどか）



私は、大学三年修了後、アイルランドへ一年間の語学留学に行きました。留学初めの半年間、私は、日本人が一人もいない田舎の地域に滞在していたのですが、長年夢みてきた留学は、自分の想像以上に辛いものでした。言語の壁に直面し、日に日に不安と孤独感が募っていきました。自分が辛い状況にいることにも気付かず毎日を過ごしていると、留学開始から二週間後、私はホームシックになり、これまで経験したことないくらいの涙が溢れ出ました。しかし、私はそんな今の自分の状況を誰にも話すことができませんでした。家族も友達も私の留学を応援してくれていたため、みんなを悲しませたくないと思ったからです。

ある日、同じホームステイ先の友人が、家が恋しくならないか聞いてきました。普段自分の弱さをあまり人に見せませんが、そのときは、家が恋しいと答えました。すると友人は、それは自然なことだよと言いました。その言葉を聞いたときに、私はとても気持ちが楽になりました。辛かったら辛いと言っていいんだと感じられた私は、自分の弱さを素直に他の人にも見せられるようになりました。

マタイによる福音書７章７－８節「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」支えが欲しい時は、素直に言えば必ず誰かが手を差し伸べてくれる、この言葉が私にそう教えてくれました。留学中、大変なことや予想外の出来事がたくさん起こりましたが、必ず周りには誰かがいて、支えてくれて、それらの経験が私を強くし、素晴らしい学び、成長、刺激となりました。どんなことがあっても私は一人じゃない、いつでも助けを求めていいんだということを胸に、強くいられることができました。

たくさんの新しい人と出会うことによって、新たな世界、新たな自分を見つけることができ、自分の心や人生が豊かになりました。助けが必要な時には助けを求める。これからも様々なことに挑戦していきたいと思っています。

〔第290号〕2025年4月1日発行　発行　金城学院大学キリスト教センター委員会　編集　金城台編集委員会

礼　拝

4月8日(火)　吉松　純　大学宗教主事
9日(水)　落合建仁　文学部宗教主事
10日(木)　松谷曄介　薬学部宗教主事
10日(木)　小室尚子　学院長・宗教総主事・大学長
11日(金)　狩野進之佑　日本基督教団愛知守山教会牧師
14日(月)　和田芳子　日本基督教団東海教会牧師
15日(火)　八束　清　日本基督教団御器所教会牧師
16日(水)　吉松　純　大学宗教主事
17日(木)　戸苅　創　理事長
17日(木)　松谷曄介　薬学部宗教主事
18日(金)　落合建仁　文学部宗教主事

イースター記念礼拝

21日(月)　田口博之　日本基督教団名古屋教会牧師
22日(火)　中島善子　日本基督教団豊橋東田教会牧師
23日(水)　小室尚子　学院長・宗教総主事・大学長
24日(木)　稲田勝之　日本基督教団中京教会牧師
24日(木)　落合建仁　文学部宗教主事
25日(金)　吉松　純　大学宗教主事
28日(月)　吉澤　永　日本基督教団愛知教会牧師
30日(水)　松谷曄介　薬学部宗教主事
5月1日(木)　南　尚浩　愛隣教会牧師
1日(木)　小室尚子　学院長・宗教総主事・大学長
2日(金)　落合建仁　文学部宗教主事
7日(水)　辻　順子　日本基督教団鳴海教会牧師
8日(木)　小板橋秀行　日本フリーメソジスト教団名古屋守山キリスト教会牧師
8日(木)　吉松　純　大学宗教主事
9日(金)　楚輪松人　文学部教授
12日(月)　松谷曄介　薬学部宗教主事
13日(火)　中島善子　日本基督教団豊橋東田教会牧師
14日(水)　加藤明宏　愛知いのちの電話協会事務局長
15日(木)　江連　実　日本基督教団豊田教会牧師
15日(木)　山田麻衣子　日本基督教団名古屋北教会牧師
16日(金)　落合建仁　文学部宗教主事
19日(月)　山本陽一郎　日本同盟基督教団多治見中央キリスト教会牧師
20日(火)　北川美奈子　中学校宗教主事
21日(水)　小室尚子　学院長・宗教総主事・大学長
22日(木)　木下裕也　日本キリスト改革派岐阜加納教会
22日(木)　松谷曄介　薬学部宗教主事
23日(金)　吉松　純　大学宗教主事

春の伝道週間（ミッション・ウィーク）

26日(月)　戸苅　創　理事長
27日(火)　小室尚子　学院長・宗教総主事・大学長
28日(水)　児玉　芽　幼稚園長
29日(木)　野々垣愼治　中学校・高等学校校長
29日(木)　長屋頼子　前金城学院中学校・高等学校長
特別讃美　ハンドベルクワイア
30日(金)　林　小夜子　みどり野会会長
6月2日(月)　松谷曄介　薬学部宗教主事
3日(火)　栗原武士　日本基督教団刈谷教会牧師
4日(水)　辻　順子　日本基督教団鳴海教会牧師
5日(木)　野田康弘　薬学部教授
5日(木)　松谷曄介　薬学部宗教主事
6日(金)　落合建仁　文学部宗教主事

ペンテコステ記念週間

9日(月)　小林　光　日本基督教団熱田教会牧師
10日(火)　O'QUINN, Caitlin R.　教育宣教師
11日(水)　TAYLOR, Matthew A.　文学部教授
12日(木)　朴　相俊　生活環境学部教授
12日(木)　南　尚浩　愛隣教会牧師
13日(金)　吉松　純　大学宗教主事
16日(月)　山田詩郎　日本基督教団名古屋北教会牧師
17日(火)　中島善子　日本基督教団豊橋東田教会牧師
18日(水)　原田　望　大学事務部長
19日(木)　上村千尋　人間科学部教授
19日(木)　小室尚子　学院長・宗教総主事・大学長
20日(金)　吉松　純　大学宗教主事
23日(月)　田口博之　日本基督教団名古屋教会牧師
24日(火)　吉澤　永　日本基督教団愛知教会牧師
25日(水)　狩野進之佑　日本基督教団愛知守山教会牧師
26日(木)　松谷曄介　薬学部宗教主事
26日(木)　落合建仁　文学部宗教主事
27日(金)　小板橋秀行　日本フリーメソジスト教団名古屋守山キリスト教会牧師
30日(月)　置田牧人　大学運営推進課課長
7月1日(火)　稲田勝之　日本基督教団中京教会牧師
2日(水)　辻　順子　日本基督教団鳴海教会牧師
3日(木)　山田麻衣子　日本基督教団名古屋北教会牧師
3日(木)　吉松　純　大学宗教主事
4日(金)　和田芳子　日本基督教団東海教会牧師
7日(月)　楚輪松人　文学部教授
8日(火)　八束　清　日本基督教団御器所教会牧師
9日(水)　原崎周平　教育研究支援部部次長
10日(木)　江連　実　日本基督教団豊田教会牧師
10日(木)　落合建仁　文学部宗教主事
11日(金)　日比野直子　人間科学部准教授
14日(月)　小林　光　日本基督教団熱田教会牧師
15日(火)　栗原武士　日本基督教団刈谷教会牧師
16日(水)　長屋頼子　学院長補佐
17日(木)　安藤　剛　事務局次長
17日(木)　落合建仁　文学部宗教主事
18日(金)　吉松　純　大学宗教主事
21日(月)　小室尚子　学院長・宗教総主事・大学長
22日(火)　山田詩郎　日本基督教団名古屋北教会牧師
28日(月)　松谷曄介　薬学部宗教主事
29日(火)　中島善子　日本基督教団豊橋東田教会牧師
30日(水)　狩野進之佑　日本基督教団愛知守山教会牧師
31日(木)　小板橋秀行　日本フリーメソジスト教団名古屋守山キリスト教会牧師
31日(木)　松谷曄介　薬学部宗教主事
8月1日(金)　落合建仁　文学部宗教主事
4日(月)　小室尚子　学院長・宗教総主事・大学長
5日(火)　吉松　純　大学宗教主事

（赤字は昼の礼拝です）

朝の礼拝

日　時　月～金曜日　8時45分～9時00分
場　所　エラ・ヒューストン記念礼拝堂

昼の礼拝

日　時　木曜日　12時40分～12時55分
（伝道週間は13時5分迄）
場　所　エラ・ヒューストン記念礼拝堂

祈祷会

日　時　水曜日　8時10分～8時25分
場　所　キリスト教センターラウンジ

キリスト教の時間

日　時　6月12日(木)　16時45分～18時15分
場　所　アニー・ランドルフ記念講堂
講　師　小海光（ウェスレー財団代表理事）

大学教員キリスト教セミナー

日　時　8月7日(木)　10時00分～15時00分
場　所　エラ・ヒューストン記念礼拝堂他
講　師　西原廉太（立教大学総長）

※各行事は諸事情により変更となる場合がございます

夏のバイブルキャンプ（予定）

詳細が決まり次第、キリスト教センターHPに掲載いたします。

オルガニスト養成講座

朝と昼の礼拝で奏楽を担当するオルガニストを養成する講座です。詳細はキリスト教センターHPをご覧ください。5月30日(金)申込締切。

スマイス奨学生

本学における福音主義キリスト教に基づく、信仰の奨励とキリスト教活動の推進を図ることが目的です。詳細はキリスト教センターHPをご覧ください。5月7日(水)申請締切。

クリスマス献金報告

献金総額（幼稚園・中学校・高等学校・大学）　674,646円
皆様のあたたかいお志とご協力に深くお礼申しあげます。

【送金先】
能登半島災害被災者のため（日本基督教団を通して）
ウクライナの人道支援のため（日本ウクライナ文化協会を通して）
他18団体

金城学院大学キリスト教センター
Tel. 052-798-0180
Email. ccoffice@kinjo-u.ac.jp
URL. https://www.kinjo-u.ac.jp/ccoffice/